

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】令和5年4月11日(2023.4.11)

【公開番号】特開2021-173827(P2021-173827A)

【公開日】令和3年11月1日(2021.11.1)

【年通号数】公開・登録公報2021-053

【出願番号】特願2020-76366(P2020-76366)

【国際特許分類】

G 02 B 7/34(2021.01)

10

G 03 B 13/36(2021.01)

G 02 B 7/36(2021.01)

G 03 B 17/18(2021.01)

H 04 N 23/67(2023.01)

【F I】

G 02 B 7/34

G 03 B 13/36

G 02 B 7/36

G 03 B 17/18 Z

H 04 N 5/232127

20

【手続補正書】

【提出日】令和5年4月3日(2023.4.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

表示枠に対応する領域を分割した複数の測距枠に対応する複数のデフォーカス量をそれぞれ算出する算出手段と、

前記複数の測距枠から、AF制御に用いられる一つのデフォーカス量に対応する一つの測距枠を選択する選択手段と、を有し、

前記選択手段は、低コントラスト枠の数が前記複数の測距枠の数に占める割合に基づいて、前記一つの測距枠を選択するためのAF動作を変更することを特徴とする制御装置。

【請求項2】

前記低コントラスト枠は、コントラスト検出処理により低コントラストと判定された枠であることを特徴とする請求項1に記載の制御装置。

【請求項3】

前記選択手段は、前記割合が前記所定の割合以上である場合、前記AF動作を至近優先方式から他の優先方式へ変更することを特徴とする請求項1または2に記載の制御装置。

【請求項4】

前記選択手段は、前記割合が前記所定の割合以上である場合、前記AF動作を至近優先方式から連続性優先方式へ変更することを特徴とする請求項1または2に記載の制御装置。

【請求項5】

前記選択手段は、前記複数の測距枠を、第一の優先領域および第二の優先領域の少なくとも二つの優先領域に区分することを特徴とする請求項4に記載の制御装置。

【請求項6】

40

50

前記連続性優先方式において連続性があると判定される閾値は、前記第一の優先領域と前記第二の優先領域とで異なることを特徴とする請求項5に記載の制御装置。

【請求項 7】

前記連続性優先方式において連続性があると判定される閾値は、前記第一の優先領域のほうが前記第二の優先領域よりも小さいことを特徴とする請求項5または6に記載の制御装置。

【請求項 8】

表示枠に対応する領域を分割した複数の測距枠に対応する複数のデフォーカス量をそれぞれ算出する算出手段と、

前記複数の測距枠から、A F制御に用いられる一つのデフォーカス量に対応する一つの測距枠を選択する選択手段と、を有し、

前記選択手段は、低コントラスト枠よりも高コントラスト枠を優先させるように、前記一つの測距枠を選択するためのA F動作を行い、

前記選択手段は、前記低コントラスト枠の数が前記複数の測距枠の数に占める割合が所定の割合以下である場合、前記A F動作を行うことを特徴とする制御装置。

【請求項 9】

前記A F動作は、至近優先方式であることを特徴とする請求項8に記載の制御装置。

【請求項 10】

前記選択手段は、被写体距離が所定の距離以上の場合、前記A F動作を変更することを特徴とする請求項1乃至9のいずれか一項に記載の制御装置。

【請求項 11】

請求項1乃至10のいずれか一項に記載の制御装置と、

撮像素子と、を有することを特徴とする撮像装置。

【請求項 12】

表示枠に対応する領域を分割した複数の測距枠に対応する複数のデフォーカス量をそれぞれ算出する算出手段と、

前記複数の測距枠から、A F制御に用いられる一つのデフォーカス量に対応する一つの測距枠を選択する選択手段と、を有し、

前記選択手段において、低コントラスト枠の数が前記複数の測距枠の数に占める割合に基づいて、前記一つの測距枠を選択するためのA F動作を変更することを特徴とする制御方法。

【請求項 13】

請求項12に記載の制御方法をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

10

20

30

40

50